

2026 年度 水資源・環境学会 研究大会

テーマ論題部 要旨

大阪湾グランドデザインの形成過程と沿岸域再生政策の検証

仲上 健一

(立命館大学 名誉教授)

「大阪湾バイエリア開発整備のグランドデザイン」が 1991 年 4 月に策定され、35 年が経過した。

本構想は、従来の港湾整備計画にとどまらず、都市機能の高度化、産業振興、環境保全、広域交通ネットワークの整備、国際交流機能の強化などを一体的に位置づけた点に特徴があり、大阪湾岸地域を中核とする広域都市圏形成を志向した総合的グランドデザインである。本デザインでは、「自然と調和した魅力的な環境の創出」を基本目標の一つとしており、工業化によって失われた海辺を、親水空間緑地文化・交流空間として再生するという思想は、今日のネイチャーポジティブ、ブルーカーボン、ウォーターフロント・リジェネレーションの先駆的实践と位置づけられる。本報告では、大阪湾バイエリア環境保全創造にかかる 35 年の実施状況を検証するため、大阪湾バイエリア環境保全創造研究会「大阪湾バイエリアにおける環境保全創造のあり方に関する検討報告書」(平成 7 年度)における環境保全創造事業の展開に向けた提案の実施状況について検証し、大阪湾 MOBA リンク構想(2050K)に向けての政策課題を抽出する。